

『ひろがることば 小学国語 二上』年間指導計画・評価計画(案)

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと △知技 ☆他教科との関連

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
4～5	13 （話す聞 く3）	一 どうしよう人物のしたことに気を付けて読もう	□登場人物の様子を思いうかべながら読み、くまの子になったつもりで音読する。			
		「えいっ」	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B感謝 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	1～4 		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	2	漢字の ひろば ① 画と 書きじゅん	△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 2. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と、それぞれの1画めがどこかを話し合う。 3. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。
				2	4. 「書きじゅんのきまり」をもとに、筆順の三つの原則について、考える。 5. 三つの原則とは異なる「とくべつな書きじゅん」があることも、理解する。 6. 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って正しく書く。	
	2 (書く2)	一年生で 学んだ 漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	3・4	7. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生のときの一年間のできごとを振り返る。 8. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	13 (書く3)	二 じゅんじょに 気をつけて 読み、つながりを見つけよう	□ありとの関わりに関心をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。			
		すみれと あり	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →◎知技(2)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア ☆生活科：順序に関心をつけて観察文などをまとめる。	1 2・3 4～6 7～9 10～12 13	○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を写真から確かめる。 (1) 題名「すみれと あり」や写真を見て、どんなことが書かれた文章なのか、話し合う。 (2) この文章を書いた人が不思議に思ったことは何か、P42から見つける。 考えよう 2. すみれの様子がどのように変わっていくのか、ありがどんなことをするのか、順序に関心をつけて読み、表にまとめる。 (1) すみれの育つ順序にそって、表に書く。 (2) すみれの種をありが見つける所から、行動の順序にそって、表に書く。 (3) 全体で交流し、表の中身を確認する。 深めよう 3. なぜ、題名が「すみれと あり」になっっているのか。友達と話し合う。 (1) 「ありとすみれ」ではない歌を考える。 (2) 考えたことを友達と話し合う。 広げよう 4. この文章を読んで、おもしろいな、不思議だなと思ったことを書く。 (1) 自分の感じたことを、『「何が、どうする」ところがおもしろい（不思議だ）と思いました。』と、表す。 (2) 書いたことを友達と発表し合う。 (3) 「すみれ」と「あり」がどのようにつながっているのか、発表したことをもとに、更に知りたいと思ったことを図書資料等で詳しく調べる。 (4) 図書資料等から、新たにオもしろいな、不思議だなと思ったことをノートに書く。 書いた文章を、友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え、内容の大体を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
5	2	「言葉あそび」を しょう	△平仮名四十七文字を全て使った歌のあることを知り、音読する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 →◎知技(3)イ	1・2	1. 「いろは歌」が、平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ、声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 2. 数え歌を知り、遊びながら読んだり歌ったりする。 3. 家の人やお年寄りに遊び歌などを教わって集め、友達と紹介し合いながら遊ぶ。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付こうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	3	かたかなで書く言葉	△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. P52を読んで、片仮名で書く言葉の種類を知り、片仮名で書く言葉を種類ごとに仲間分けをさせる。 2. 片仮名に習熟していない児童は、まちがえやすい片仮名を書き順や形に気をつけて書く練習をする。	◎【知識・技能】片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。
				2・3	3. P53上段の設問を読み、絵の中の言葉をP52の①から④のように仲間分けをし、片仮名で書く。 4. P53下段の設問を読み、絵の中から片仮名で書く言葉を見つけ、適切な文を作る。 5. 片仮名で書く言葉には他にどのようなものがあるか、どう使うか考え話し合う。 ○学習したことを振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	2	漢字の ひろば ② なかまの 言葉と 漢字	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第２学年においては、学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第１学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第２学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「家族を表す言葉」について考える。 2. 「時を表す言葉」について話し合う。 2	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知らうとしている。
6	4 (話す聞く2)	うれしく なる 言葉	△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ ◇身近なことを経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	1・2	○学校生活を振り返り、うれしかった言葉を想起して「うれしくなる言葉」について学ぶことへの見通しをもつ。 1. 心に残っている「うれしかった言葉」を思い出して、①どんな時に言われたか、②誰から言われたか、③どんな言葉をかけられたか、④どう思ったかを思い出して、カードに書く。 2. カードに書いたものをグループで見せ合い、会話をしながらお互いの気持ちを伝え合う。 3. グループでの発表をもとに、次はクラス全体に代表者が発表する。 4. 家族に言われてうれしかった言葉を思い出して、話し合いながらいろいろなエピソードを見つけ、言葉と経験を結びつける。 3	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこととし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
				4	5. 挿絵の友達の作品を見て、友達にかけるとよい言葉を考える。 6. 言葉を考えながら友達にかけ言葉はどういうものがうれしいのか、相手の立場に立ったものを探えられるとよいことに気づく。 7. 相手や自分が「うれしくなる言葉」について考える中で、どんな言葉だとうれしくないのかも考えさせるなど、人の気持ちを考えて言葉を使うことを考える。 8. 友達の素敵なところを思い浮かべて、みんなでうれしくなる言葉を伝え合う。 9. 言葉によって相手や自分がどのような影響を受けるのかを考え、学習をまとめる。 ○学習したことを振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6～7	15 (書く3)	四 くりかえしに 気をつけて、とうじょう人物の様子を 読もう	□繰り返し出てくる言葉に気をつけて読み、繰り返しのあるお話を作る。			
		きつねの おさやくさま	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒ 知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒ ◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒ 思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒ 思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒ 思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒ ◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒ ◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒ 思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒ 思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒ 思判表C(2)イ ☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り、友達に紹介する。 ☆道徳：D 生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	1 2・3 4～9 10～12 13～15	○学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. P82「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。 考えよう 2. 以下のそれぞれの時のきつねの思いを確認する。 (1) ひよこ、あひる、うさぎに「お兄ちゃん。」と言われた時。 (2) 「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って、飛び出した時。 (3) 飛ぶ音がしなくなった時。 深めよう 3. きつねの性格を考えて、訳とともに文章に書き、それをもとに話し合う。 広げよう 4. この話の好きな場面を発表する。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。
7	5	いなばの しろうさぎ	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒ ◎知技(3)ア ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	1 2・3 4・5	○学習の見通しをもつ。 1. 絵を見て、どんなお話なのか、ストーリーを予想する。 2. 絵を見ながら、教師の音読を聞いて、場面の絵をもとにお話を確かめる。 3. 昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	4 (書く4)	「かんさつ発見カード」を書こう	■観察して同じところや違うところを見つけ、「かんさつ発見カード」を書く。 △文中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1 2 3 4	○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。 2. 新しく観察して気づいたことをメモに書き出す。 組み立てよう・くらべよう(重点) 3. メモを組み立て表の上に並べてみる。 4. 3のメモとこれまでに書いた観察記録を比べ、同じところと違うところに目を向ける。 書こう・読み返そう 5. 比べて気づいた点を「発見」として「かんさつ発見カード」を書く。 伝え合おう 6. お互いに読み合う。 ○ 学習を振り返る。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) ◎【知識・技能】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。
7	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	△言葉が体系的をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりすることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1 2	○言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。 2. 前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題づくりを行う。 3. 別のグループの友達と一緒に「言葉の仲間さがしゲーム」を行う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	12 (書く3)	五　したことや言ったこと から、登場人物の考えを読 む	□登場人物のしたことを思い浮かべながら読み、 登場人物に手紙を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒ ◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判 表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内 容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫す ること。⇒思判表B(1)ウ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体 を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体 的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想 をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有 すること。⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像し たことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりし て、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりす る活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D感動、畏敬の念　美しいものに触れ、 すがすがしい心をもつこと。			
		わにのおじいさんのたから もの		1	○単元の見通しをもつ。	◎【知識・技能】言葉には、事 物の内容を表す働きや、経験し たことを伝える働きがあること に気付いている。（〔知識及び 技能〕(1)ア）
				2・3	確かめよう 1．どんなお話を確認する。 （１）登場人物を確認する。 （２）始めと終わりの場面を比べて、お話の中でど んなできごとがあったのかを確かめる。主なできごと （おにの子とわにのおじいさんの行動）を確認す る。	【思考・判断・表現】「書くこ と」において、語と語や文と文 との続き方に注意しながら、内 容のまとまりが分かるように書 き表し方を工夫している。 （〔思考力、判断力、表現力 等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、場面の様子に 着目して、登場人物の行動を具 体的に想像している。（〔思考 力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、文章の内容と 自分の体験とを結び付けて、感 想をもっている。（〔思考力、 判断力、表現力等〕Cオ）
				4～6	考えよう 2．登場人物の気持ちを想像する。 （１）わにのおじいさんは、どうしておにの子に宝物 の場所を教えたのか。 （２）おにの子、わにのおじいさんの、それぞれに とっての「たからもの」は何か。	【態度】進んで場面の様子に着 目して、登場人物の行動を具体 的に想像し、学習課題に沿って 登場人物に手紙を書こうとして いる。
				7～9	深めよう 3．おにの子は、どのような人物だと思うか。	
				10・11	ひろげよう 4．お話のおもしろいと思ったところや、素敵だ なところを発表する。	
				12	5．話し合ったことをもとに、おにの子か、わにの おじいさんに手紙を書く。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	2	はんたいのいみの言葉、に たいみの言葉	△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉 から対義語や類義語を集めることができる。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の 中で使うとともに、言葉には意味による語句のま とまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関 係について理解すること。⇒知技(2)ア	1	○言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味を もつものがあることを知り、学習活動に対する見通 しを持つ。 1. 「はんたいのいみの言葉」にはどのようなもの があるかを考え、ペアになるカードを作る。 2. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。	◎【知識・技能】身近なことを 表す語句の量を増し、言葉には 意味によ る語句のまとまりがあることに 気づき、語彙を豊かにしてい る。（〔知識及び技能〕(1) オ） 【態度】積極的に言葉には意味 による語句のまとまりがあるこ とに気付こうとし、学習の見通 しをもって言葉を分類しようと している。
				2	3. 「にたいみの言葉」にはどのようなものがある のかについて考える。 4. 「にたいみの言葉」を分類したり、整理したり して、気づいたことを話し合う。 ○学習したことを振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9～10	11 (書く11)	六 まとまりを考えて書く	■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて、町探検報告文を書く。			
		町の「すてき」をつたえます	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。	1 2～4 5～7 8～10 11	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 探検してわかったことを、メモに書く。 (1) 探検したい場所を決めて探検し、探検したことを「町たんけんカード」に書く。 (2) 「町たんけんカード」の中から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」などを抜き出してメモに書く。 (3) メモに書いたことについてペアで読み合い、話し合う。 組み立てよう（重点） 2. 「はじめ・中・おわり」に何を書くか考える。 書こう・読み返そう（重点） 3・4. 文章を書き、読み返す。 伝え合おう 5. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして報告する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	2（書く １）	七　しゃしんをくらべて、 考えよう	□ 1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真 になった際、何かが起きたことを想像する。			
		この間に何があった？	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒ 知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の 中で使うとともに、言葉には意味による語句のま とまりがあることに気付く、語彙を豊かにするこ と。⇒知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関 係について理解すること。⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思 判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、 内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想 をもつこと。⇒◎思判表C(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像し たことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なこと について書いた本などを読み、分かったことなど を説明する活動。⇒思判表C(2)ウ	1・2	○学習の見通しをもつ。 1. 1枚めの写真と2枚めの写真を比較して、間に 何があったのかを想像し、表現する。 (1) 1枚目と2枚目の写真の違いを見つける。 (2) 見つけた違いをもとにして、間にどのようなこ とが起きていたかを想像する。 (3) 想像したことを書いたり、話したりして表現す る。 (4) 友達と自分の想像の同じところ、違うところに 気がつく。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、自分の思いや 考えが明確になるように、事柄 の順序に沿って簡単な構成を考 えている。(〔思考力、判断 力、表現力等〕Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、時間的な順序 や事柄の順序などを考えなが ら、内容の大体を捉えている。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Cア) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、文章の内容と 自分の体験とを結び付けて、感 想をもっている。(〔思考力、 判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】積極的に共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解し、学習課題 に沿って考えたことを文章にま とめようとしている。